

## 地域の教育 グラウンドデザインづくり

「特色ある学校づくり」、「学校に特色を持たせる」、従来からカリキュラムをつくるときに言われてきた。特に教務主任、または学校全般に関わる業務の主任や担当になった場合には関わることである。

そのために、グラウンドデザインづくり重要であると言われてきた。思いつきや管理職を含めた教職員の好みでデザインするのではなく、住民の思い、地域や学校の文化、・歴史、子供の状況、施策等を理解してつくることが大切である。今日、デザインづくりは管理職の仕事だけでなく、教員が行う仕事でもある。

今年、知り合いの教員が進路指導主事になったので、地域の教育を理解し、それをもとにした仕掛けをしていこうということで、何度か集まってグラウンドデザインをつくった。

対象とした地域は、かつて独立した自治体であったが、現在は合併し、新たな自治体の一部である。

地域共通の過疎化、高齢化、少子化があり、学校存続も危ぶまれかねない状況である。

グラウンドデザインづくりには、地域の小学校教員や地域出身の教員、かつて地域の学校に勤務した教員等にも参加してもらったり、意見を頂いたりした。

デザインを検討する中で、福祉の視点も必要であることがあり、教育センターの福祉担当の指導主事からも助言を頂いた。

まだまだ検討が必要であろうが、年内完成を目指し、先日完成した。

次は、進路指導主事として管理職に提案し、学校経営に積極的に参画してほしい。

管理職の理解があり、学校経営の施策となれば、管理職を通して地域や他校種の校長へも提言していただき、共同して取り組みが可能になる。学校の運営委員会や職員会議で全職員の理解のもと、組織的な取り組みが可能になる。学校として様々な課題が生じたときには、このグラウンドデザインを判断基準にすることもあるのではなかろうか。

近年、学校や教員に対していろいろな提言がある。その一つとして、教員が身につけなくてはならない能力の一つにカリキュラム編成（またはカリキュラムマネジメント）がある。このグラウンドデザインづくりも大いに関わりがある。新たな学校に着任したら、早く情報を収集し、管理職や主任でなくとも自分なりのグラウンドデザインをつくるとよい。これがあると積極的な学校経営参画ができるようになる。二つ目は、地域に開かれたカリキュラムづくりである。学校週五日制や総合的な学習の時間が導入されたころから提言されてきたものだが、今後一層必要になるろう。カリキュラム編成とともに、地域のだれを何を活用するか、組織マネジメントの考え方も役立つだろう。

さあ、今年も終わります。年度としてはあと三ヶ月あります。寒いこの時期にいろいろ考えてデザインしましょう。

〇〇市(町)の教育 ~ふるさと〇〇・ふるさと石川・世界での活躍~  
~人としての正しい生き方ができるための教育~

